

# 学習農園（名称： かすがい農業塾）

## 自治体情報

人 □ 307,052人

標準財政規模 51,414,800千円

担当課 愛知県 春日井市 産業部農政課農業振興担当

電話 0568-85-6238

ホームページ <http://www.city.kasugai.lg.jp>

事業期間 平成20年度から

参考とした施策 豊田市・農ライフ創生センター  
日野市・農の学校など

関係施策分類

## 施策の概要

### 1 取り組みに至る背景

従事者の高齢化や後継者不足、担い手の育成など本市の農業はさまざまな課題を抱えている。また、名古屋市に隣接していることから都市化に伴う農地の減少、農業従事者の減少が続いており、農作物の販売を行っている農協の産直部会の部会員も減少している。

このような課題や状況に対応するためには、さまざまな団体が連携を図りながら課題解決に向けた事業に取り組む必要があることから、県、農協、市の三者で構成する「春日井の農業を考える会議」を平成18年に立ち上げ、このなかで学習農園を設置する提案があった。



### 2 事業内容（目的・目標・方策）

学習農園では、新たな農業の担い手を育成したり、農業者を支援するボランティアなどを養成したりすることを目的に、広報や市ホームページで受講生を募集した。

応募者の中から25名の受講生を決定し、平成21年1月に開講式を行い、野菜を中心とした作物の栽培について、12月までに32回の講座及び実習を実施し、栽培計画の策定から収穫までの実習を通して知識や技術を身に付ける。平成22年1月には、新たな第2期の受講生による開講式を行う予定である。

学習農園には休憩所やトイレを設置し、農園で利用する水を井戸から汲みあげるポンプの設置や駐車場の整備などを行った。

なお、農園の名称は、受講生の意見を聞き「かすがい農業塾」に決定した。



### 3 施策の開始前に想定した事業効果

学習農園の受講生を募集するときには、今後、農業を行いたいという意欲のある人を募集することから、修了後は、受講生のうち幾人かが土地を借りて農業を行うことや、後継者がいない農家を手伝うことなどを想定している。

また将来的には、受講生が栽培した農作物を農協の産地直売施設で販売できるようになり、地産地消が推進される効果を期待している。

#### 4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

学習農園を開設するには、畑にまく水、駐車場、そして受講生が余裕をもって耕作できる農地、受講生を教える指導者など、さまざまな課題があった。

借用した農地は以前果樹園であり、しばらく放置してあったので、畑にするために市と農協等の職員が協同して耕起や施肥をしたり、駐車場の整備をしたりした。

また、受講生の指導には農協の指導員だけではなく、産直部会の農家の方5名をアドバイザーとして依頼し、各グループの指導者として参画いただいた。



#### 5 現在の成果・実績、今後の展開など

グループでの協議により、さまざまな栽培方法から一つの方法を選択して栽培することにより、グループの自主性が生かされている。また、グループごとに実習を行うことにより、他のグループの栽培状況や進捗状況を意識したり、7月に実施した夏の農業祭のコンクールに各グループから出品したりして、実習に対する意欲が高まっている。

実習では定められた回数以上に多く日数を要するため、5名の農家の方には大きな負担となっており、指導体制の構築が必要となる。また、修了生が自ら耕作するための農地の借用や、修了した受講生を教える指導者などの支援体制が必要となる。



### 予算関連データ 春日井市

平成21年度額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
1,554千円		0千円	0千円	0千円	20千円	1,534千円
①～④の名称・所管等	名称					/
	所管					
	金額					
	補助率					